

平成28年度 子ども大学はにゅう 学習の記録

～ 子ども大学はにゅう学習の記録 ～

1日目：9月10日（土曜日）

2日目：10月22日（土曜日）

3日目：11月5日（土曜日）

4日目：12月10日（土曜日）

1日目：2016年9月10日（土曜日） 埼玉純真短期大学

時間	内容	講師	会場
午前9:00～9:30	入学式		埼玉純真短期大学
午前9:45～10:30	身体を使った遊びの達人 になろう	安倍 大輔先生 (埼玉純真短期大学)	
午前10:45～11:30	宇宙から眺める地球は どんなだろう	久保田 郁夫先生 (埼玉県立羽生第一高等学校)	

○入学式

第6期の「子ども大学はにゅう」は4年生14名、5年生6名、6年生8名の計28名に、子ども大学はにゅうを卒業した中学生のサポーター7名が加わり、にぎやかにスタートしました。サポーターは今期からの新しい取組みで、子ども大学はにゅうを卒業した中学生が小学生たちの活動を支援し、活動をより充実したものにしていけるものです。異学年交流の機会を通して、小学生にとっても中学生にとっても、子ども大学はにゅうがより良い学びの場となることを目指します。サポーターの中学生は、サポーター講座を受けながら活動していきます。入学式前から早速、受付や誘導などで小学生たちと元気に関わってくれていました。

入学式は、埼玉純真短期大学のマナー実践室で開かれました。初めての入学式に緊張した表情の学生も見られましたが、一昨年、昨年に続いての参加となる学生たちはすっかりなじんで、堂々とした様子でした。



○開式のことば

埼玉純真短期大学の伊藤道雄先生の開式のことばで入学式が始まりました。司会は、埼玉純真短期大学1年生の学生が務めました。



○あいさつ

藤田利久学長（埼玉純真短期大学学長）、秋本文子副学長（羽生市教育委員会教育長）からご挨拶をいただきました。これからの子ども大学はにゅうでの学びを激励する言葉に、学生たちは真剣な様子で聞き入っていました。



○記念品贈呈、学生代表のこぼ

「子ども大学はにゅう」への入学を記念して、記念品の贈呈が行われ、入学生を代表して、入江 百花（いりえ ももか）さんが藤田学長から記念品を受け取りました。記念品は、学習ファイル、手提げバッグ、クリアファイル、鉛筆、蛍光ペン、メモ帳です。ぜひ、学生の皆さんの今後の学習に活用していただきたいと思います。

また、子ども大学はにゅう 6期生を代表して、子ども大学はにゅう 3年目となる小早川 真莉（こばやかわ まり）さんが学生代表のこぼを述べ、「子ども大学はにゅう」への抱負を語ってくれました。



○グループの役割決め

入学式終了後は、第6期「子ども大学はにゅう」の4回の活動を一緒に行っていくグループで役割決めを行いました。初めて会う学生がいたり、4～6年生までのメンバーが混ざっていたりと、最初は緊張した様子で役割決めが始まりましたが、サポーターの中学生や羽生市青少年相談員の皆様のご協力があり、各グループでリーダー、副リーダー、感想係、発表係を決めることができました。



○1 限目：「身体を使った遊びの達人になろう」

体育館に移動して、1限目の授業が始まりました。「子ども大学はにゅう」第6期最初の授業は、埼玉純真短期大学の安倍大輔先生による「身体を使った遊びの達人になろう」でした。

身体を動かしながら、お互いが仲良くなれるようなたくさんのレクリエーションゲームに挑戦しました。じゃんけんをして勝った人が相手の周りをグルグルとまわるゲームでは、最初はお互いのことがよくわからなくて不安な様子から少しずつ笑顔が増えていく様子が見られました。その後、チームになって新聞や風船を使ったゲームもしました。新聞を使ったゲームでは、チーム全員がまず12枚の新聞をつないだ大きな新聞の上に乗る、相手チームとじゃんけんします。じゃんけんに負けたチームが次々と新聞を折っていき、小さくなる新聞の上にチームメンバー全員が乗りきれなくなったら負けです。どのチームもじゃんけんをがんばるのはもちろん、新聞の折り方やメンバーの乗り方を工夫して、できるだけ長く乗ってられるようにがんばっていました。ゲームを通して、どんどん笑顔が増え、みんなが仲良くなっていく様子が伝わってきました。なかでも、最後に行われた“大根抜き”ゲームはとても盛り上がりました。両腕を隣の人と組んで座り、学生が“大根”になります。それを中学生サポーター2人がまず農家になって、学生の足を引っ張って“抜く”のです。お互いに両腕を組み合せて支え合いますが、中学生サポーター2人も一生懸命抜いていきます。その後、抜かれたメンバーも農家になっていくので、“大根”になっている学生たちはどんどん抜かれていきました。あちらこちらで楽しい歓声があがり、学生みんながすっかり仲良しになった様子でした。





○2 限目：「宇宙から眺める地球はどんなだろう」

2 限目は、埼玉県立羽生第一高等学校の久保田郁夫先生による「宇宙から眺める地球はどんなだろう」の授業が行われました。1 枚の紙から正二十面体の地球儀を作り上げていきます。まず先生から、地球儀のどこに日本があるのかや海の深い青色の部分に海溝があることなど、地球の様子について教えていただきました。学生たちは興味津々な様子で見本の地球儀を眺めていました。その後、作り方を教えていただき、地球儀作りにとりかかりました。まず、カッターを使って切れ目を入れていきます。力が強すぎて本当に切れてしまってもいけないし、

弱すぎて切れ目が十分に入らないとその後の折る作業が大変になるため、学生たちは注意深く真剣に作業を進めていました。切れ目が入り、型紙通りにきれいに切り抜くと、今度は組み立ての作業に入ります。正二十面体をボンドで貼り付けながら組み立てていきますが、最後の部分がとても難しく、せっかく途中まで作り上げてきた形をくずさないように学生たちは集中して作業をしていました。できあがった地球儀を学生たちはとても満足そうな表情で眺めていました。



2日目：2016年10月22日（土曜日） 埼玉純真短期大学

時間	内容	講師	会場
午前9:00～9:40	角帽を作ろう	羽生市青少年相談員の皆さん	埼玉純真短期大学
午前9:50～10:30	空に向かって飛行機を飛ばそう	持田 京子先生、金子 智昭先生 (埼玉純真短期大学)	
午前10:40～11:30	ムジナモンでグルグル ヘキサ・フレクサゴンを 作ろう	齋藤 史夫先生 (埼玉純真短期大学)	

子ども大学はにゅうの2日目が行われ、中学生サポーターが元気に登校してきた学生の皆さんを出迎えました。2日目は、羽生市青少年相談員の皆さんによる「角帽を作ろう」、埼玉純真短期大学の持田先生、金子先生による「空に向かって飛行機を飛ばそう」、埼玉純真短期大学の齋藤先生による「ムジナモンでグルグル ヘキサ・フレクサゴンを作ろう」の3時間の授業が行われました。



01 限目：「角帽を作ろう」

1限目の「角帽を作ろう」（羽生市青少年相談員4名の先生）では、卒業式にかぶる角帽を羽生市相談員の皆さんに教えていただき、中学生サポーターに手伝ってもらいながら作りました。自分の頭に丸めた用紙をあててサイズを決め、切り込みを入れて工作用ボンドで貼り付け、形を整えていきます。子ども大学に通い始めて3年目の子どもたちはすっかり慣れた様子で、初めて作る子どもたちはきれいに形を整えるのに苦労している様子が見られましたが、かぶるのが楽しみになるような素敵な角帽ができあがりました。

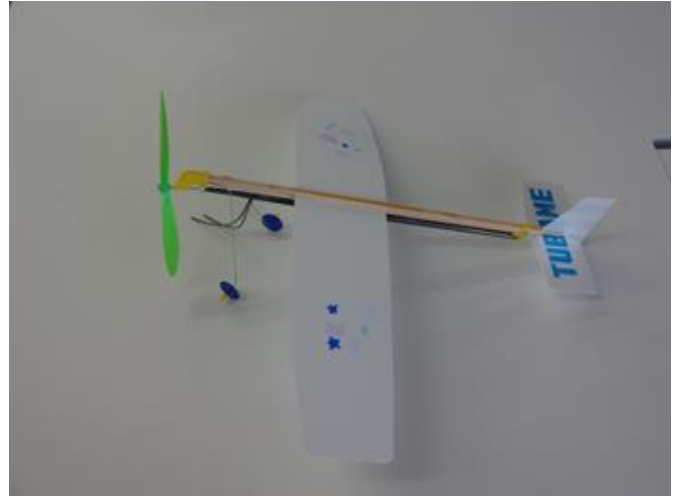




○2 限目：「空に向かって飛行機を飛ばそう」

2限目の「空に向かって飛行機を飛ばそう」（本学 持田先生、金子先生）では、まず飛行機が飛ぶ理由を考えたり、飛行機にまつわるクイズに挑戦して、飛行機の仕組みについて学びました。学生の皆さんは次々に思いついた意見が挙げながら、楽しそうに飛行機について考えていましたが、いろいろな工夫がされて初めて飛行機が飛んでいることに気づき、とても感心した様子でした。その後、飛行機づくりに挑戦しました。翼の部分に自由に絵や文字を描き、翼やプロペラ、ゴムなどを取り付けていきましたが、この飛行機が飛ぶために大切なゴムの部分を付けていく作業がなかなか難しい様子で、学生の皆さんは試行錯誤しながら一生懸命に作っていました。完成した飛行機は、大学の中庭で実際に飛ばしてみました。飛ばした飛行機が建物の屋根にのってしまおうというハプニングもありましたが、遠くまで勢いよく飛んでいく飛行機に大きな歓声があがりました。

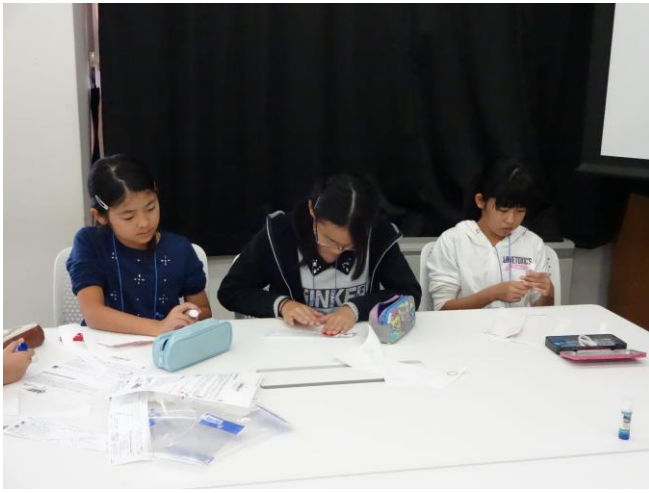




○3 限目 : 「ムジナモンでグルグル ヘキサ・フレクサゴンを作ろう」

3限目の「ムジナモンでグルグル ヘキサ・フレクサゴンを作ろう」(本学 齋藤先生)では、羽生市のゆるキャラであるムジナモンとその仲間たちがくるくるとあられる正6角形のパズル(ヘキサ・フレクサゴン)づくりに挑戦しました。用紙をハサミで切ったり、線に合わせて折ったり、必要などころをのりで貼り付けたりとたくさんの作業を進めていくと、ひっくり返せば“ムジナモン”が“いがまんちゃん”に、さらに“ムジナモンの仲間たち”へと早変わりするヘキサ・フレクサゴンが出来上がりました。最後にきれいに絵柄が出てくるためには、丁寧に作業をしてずれないように組み立てていく必要がありますが、学生の皆さんは集中して作業に取り組み、完成するとくるくる変わる絵柄にみんな大喜びでした。ヘキサ・フレクサゴンは数学の知識と関連していることから、齋藤先生から「中学校で数学を勉強したときにまたよく思い出してください」とお話がありました。





子ども大学2日目も、学生の皆さんにとって、たくさんの発見があり、楽しく充実した時間になったようです。また、当日は本学の純真祭（学園祭）が行われており、子ども大学はにゅうの学生の皆さんにも楽しんでほしいということで、模擬店で使用できるチケットが配布されました。子ども大学の授業終了後、模擬店を周りながら、食事をしたり、ゲームを楽しんでいる姿が見られました。

3日目：2016年11月5日（土曜日）

時間	内容	講師	会場
午前10:00～11:30	はにゅうの産業と歴史を 知ろう③	株式会社東亜酒造の皆さん (羽生ロータリークラブ)	株式会社東亜酒造

本日、子ども大学はにゅう3日目が行われました。3日目の授業は、羽生市ロータリークラブに「羽生の産業と文化の歴史」の講座をお願いし、一昨年、昨年に続く「はにゅうの産業と歴史を知ろう③」として、ロータリークラブ会員の株式会社東亜酒造さんで講座を開いていただきました。会社の正門や講義をしていただくお部屋の入口にたくさんの看板を用意してくださり、子ども大学はにゅうの学生の見学を歓迎してくださいました。また、中学生サポーターがいつものように元気に学生の皆さんを出迎えました。

まず最初に、子ども大学はにゅう実行委員長の伊藤先生、株式会社東亜酒造の高尾裕社長よりご挨拶の言葉をいただき、講座が始まりました。



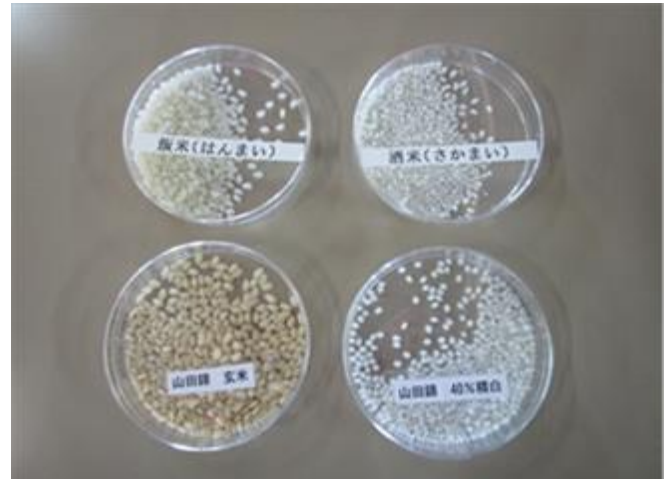


講座は2つのグループに分かれて、甘酒講座と工場見学を順に受講しました。

甘酒講座は、企画・開発室の飯田さん、篠崎さんが担当してくださり、麴から作るおいしい甘酒の作り方を教えていただきました。栄養豊富な甘酒が江戸時代には「夏の栄養ドリンク」として親しまれるようになったこと、「飲む点滴」と言われるほど美容や健康に効果があること、麴から作る甘酒は砂糖を加えなくてもしっかり甘みを感じられ、アルコール分も含まれないことなどを教えていただき、甘酒への興味が高まりました。その後、実際に炊飯器で蒸しているところや作業の写真を示しながら、麴を使ったおいしい甘酒の作り方を丁寧に説明していただきました。そして、最近人気が高いという冷やし甘酒を試飲させていただき、初めて甘酒を飲むという学生たちはドキドキしながら甘酒を味わっていました。



工場見学を待つまでの間も、普段食べているお米とお酒を作るお米が違うこと、お酒の種類によってお米を削る割合が違うことなど、お酒造りに関するさまざまな知識を教えてくださいました。



工場見学の前には見学用の白衣を着て帽子をかぶり、さらに工場の中に入る前には手洗いと消毒をして、靴カバーを付け、衣服や白衣のほこりもきれいに取って、しっかり準備をして見学を行いました。

まず見学させていただいたのは、箱詰めされた品物が機械によって積まれ、それをフォークリフトで運んでいる様子です。機械が箱の向きを調整しながら整然と積み重ねていく様子に学生たちは興味津々の様子で見入っていました。





次に、工場の中で完成したお酒が箱詰めされている様子、ボトル詰めの様子、ボトルにラベルが貼られていく様子などを見せていただきました。出来上がっている箱にお酒のパックが詰められていくのではなく、お酒のパックが並べられたあとに箱が組み立てられていく様子や、1分間にたくさんのボトルに次々と詰められ、ラベルが貼られていく様子に学生たちは驚いた様子でした。学生たちは工場の中で行われている作業の一つ一つをわくわくしながら見学し、疑問に思ったことを工場の方に質問させていただいて、工場の中でどのような作業が行われているのかについて詳しく学ぶことができました。また、工場で働く方々が食品を扱うために清潔さを保つことに細心の注意を払っている様子や、仕事に熱心に取り組まれている様子を直接感じることができ、学生たちにとって働くということへの理解も深まる機会になったようです。学生たちは、最後に書くアンケートにいつも以上に熱心に感想を書き込んでいました。

株式会社東亜酒造の皆さんの対応はととてもあたたかく、高尾社長や講師を務めてくださった企画・開発室の飯田さん、篠崎さんの明るく朗らかな雰囲気や、工場内ですれちがう皆さんが気持ちのよい挨拶の声をかけてくださる様子がとても印象的でした。地元の羽生市にこのような素晴らしい会社があることを知り、学生たちもこれまで以上に地元への愛着が高まったのではないかと思います。

最後に、子ども大学はにゅう副学長の秋本文子副学長（羽生市教育委員会教育長）からご挨拶をいただき、株式会社東亜酒造の皆様への感謝の言葉が述べられました。そして、高尾社長から参加した学生と保護者の方、スタッフに素敵なプレゼントをいただきました。学生の皆さんにはおいしい甘酒を作るための麴と作り方のパンフレットを、保護者の方やスタッフにはおいしいお酒をいただき、学生も保護者の方もスタッフもみんなとても喜んでいました。参加していた学生や保護者の方からはぜひ甘酒作りに挑戦してみますという声が聞かれました。





4日目：2016年12月10日（土曜日）

時間	内容	講師	会場
午前9:00～10:00	コンピュータを使って、僕だけ私だけの下敷きを作ろう	小松 和弘先生 (埼玉純真短期大学)	埼玉純真短期大学
午前10:10～10:40	学習のまとめ	牛込 彰彦先生 (埼玉純真短期大学)	
午前11:00～11:30	修了式		

本日、子ども大学はにゅうの4日目が行われました。風の強い寒い日になりましたが、学生の皆さんは元気に登校してきました。授業終了後には修了式が行われ、9月に入学した学生の皆さんが卒業を迎えました。4日目の授業では、「コンピュータを使って、僕だけ私だけの下敷きを作ろう」「学習のまとめ」の2つが行われました。



01 限目：「コンピュータを使って、僕だけ私だけの下敷きを作ろう」

1限目の「コンピュータを使って、僕だけ私だけの下敷きを作ろう」（本学 小松先生）では、パソコンの操作を基礎から教えてもらいながら自分だけの下敷きづくりに挑戦しました。まず、それぞれが用意してきた写真やインターネットを使って探した自分の好きな画像をもとに下敷きのデザインを考えました。好きな動物や好きなキャラクター、自分の幼い頃の写真、ペットの写真など、さまざまな画像を楽しそうに選んでいました。次に、選んだ画像を組み合わせたたり、大きさや位置を変えたり、文字を入れたりしながら下敷きのデザインを完成させていきました。パソコンを上手に使いこなしている学生も多く、授業を担当した小松先生が驚くほどスムーズに作業が進んでいきました。パソコン操作がわからなくて困ったときには、中学生サポーターやスタッフに手伝ってもらいながら学生みんなが下敷きのデザインを完成させることができました。修了式前に加工された下敷きが配布されると、学生たちはとても嬉しそうに自分だけの下敷きを眺めていました。





○2 限目：「学習のまとめ」

2 限目の「学習のまとめ」(本学 牛込先生)では、これまでに行われた 4 日間の授業を振り返り、学習の成果をまとめ、班ごとに発表するための練習を行いました。これまでも授業が終わるごとに宿題として学生それぞれが作っていた「学習のまとめ」の用紙に 4 日目の授業の感想を加えて、「学習のまとめ」を完成させました。いろいろな色を使ってきれいにまとめたり、さまざまな絵を描いたり、丁寧な説明の文章でまとめていたり、学生それぞれが工夫した「学習のまとめ」が完成しました。その後、これまで 4 日間の子ども大学はにゅうでの活動と一緒に取り組んできた班で「学習のまとめ」を発表しあい、修了式前に行われる学習発表会の練習を行いました。中学生サポーターが班長さんをサポートしながら、班長さんを中心に 4 日間の授業の中で印象に残った学習の感想を発表する練習に一生懸命取り組んでいました。





○学習発表会

修了式の会場に移動して「学習発表会」が行われました。学長、副学長、来賓の方、保護者の方、学生、スタッフと大勢が見ている前で発表に学生たちはとても緊張した様子でしたが、発表が始まる前の礼や終わった後の礼もしっかりして、班長さんの進行のもと、どの班の学生も自分の感想をとても堂々と発表していました。子ども大学はにゅう4日間の活動を通して、学生の皆さんがさまざまな経験をし、多くのことを考え、とても成長したことが感じられる発表でした。



○修了式

修了式は、子ども大学はにゅう実行委員会の伊藤委員長の開会のことばで始まりました。司会は、埼玉純真短期大学1年生の学生が務めました。



○修了証書授与

学生は自分で作った角帽をかぶり、子ども大学はにゅうの藤田学長から一人ひとり修了証書を受け取りました。



○学長賞授与

子ども大学はにゅうに小学校4年生から小学校6年生までの3年間継続して参加した7人の学生に学長賞が授与され、秋本副学長から記念品が渡されました。

○あいさつ

子ども大学はにゅうの藤田学長、秋本副学長から、自分を支える周囲の人への感謝を忘れず、夢に向かってこれからさらにたくさんのことに挑戦してほしいという激励のお言葉をいただきました。



○学生代表のことば

学生を代表して、子ども大学はにゅうに3年間通ってきた小学6年生の児童が「学生代表のことば」を述べてくれました。とても堂々とした様子で、これまで3年間子ども大学はにゅうでの経験を振り返り、その学びを活かして今後がんばっていくという意気込みを述べてくれました。来年からは、中学生サポーターとしてまた子ども大学はにゅうに関わっていきたいという言葉もとても嬉しいものでした。



○記念品贈呈

終了式にあたり、羽生市教育委員会から記念品が贈られました。子ども大学はにゅう実行委員会の池澤副委員長より記念品について説明があり、秋本副学長より学生代表の小学6年生の児童に記念品が贈呈されました。



○サポーターへ感謝状贈呈

いつも元気に子どもたちをサポートし、子ども大学はにゅうの運営に協力してくれた中学生サポーター7名に藤田学長より感謝状が贈られました。



修了式終了後に、班ごとに記念写真の撮影を行いました。角帽をかぶり、本日の授業で作った下敷きを持って、どの班の学生もとても大学生らしい素敵な姿を見せてくれました。

